

【企画もの】

## 付箋を比較してみた

奈良女子大学 文学部

松林 実佑

付箋といっても今や様々な種類があり、値段もバラバラだ。今回は百均で売っている付箋を対象を絞って、素材・色展開・粘着力・筆記具ごとの書き心地等々を調査、比較してみようと思う。

### ◎調査に使用する付箋

- A：『セリア 貼ってはがせるふせん』
- B：『FIT MEMO 強粘着ふせん』
- C：『セリア 全面のりふせん』
- D：『色付き 透明ふせん』
- E：『FIT MEMO ふせん トレーシングタイプ』



### ◇素材

あるセリアの付箋コーナーには紙、フィルム、トレーシングタイプの3種類の素材があった。商品数としては、紙60個、フィルム15個、トレーシング1個。紙の中には事務用品の他に、キャラクターものやメッセージ用の可愛いデザインのものもあり、やはり紙付箋の品ぞろえが豊富である。

### ◇形状

- 紙：細い短冊タイプ～正方形のメモタイプまで幅広い
- フィルム：素材の強度を活かした極細タイプ～細い短冊タイプが主流
- トレーシング：細い短冊タイプ

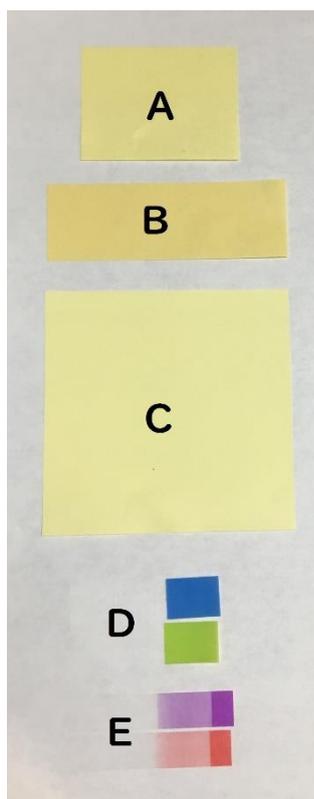
### ◇色展開

- 紙：最大5色 <ピンク(赤)・オレンジ・黄色・黄緑(緑)・水色(青)>
- フィルム：最大7色 <ピンク・オレンジ・黄色・黄緑・青・紫・薄紫>
- トレーシング：10色(サンプルがひとつなため暫定)

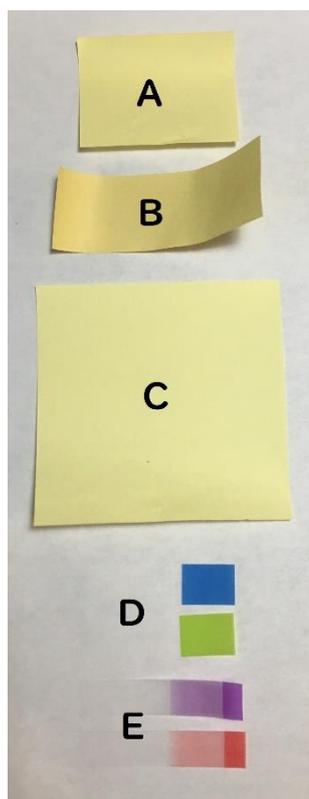
### ◇粘着力

粘着に関してパッケージを見比べると「貼ってはがせる」「強粘着」「全面のり」の3種類があった。今回は印刷用紙・段ボール・壁・人体それぞれに5種類の付箋を貼り、4つの実験を行うとともに、粘着力と付箋の反れやすさを調査した。

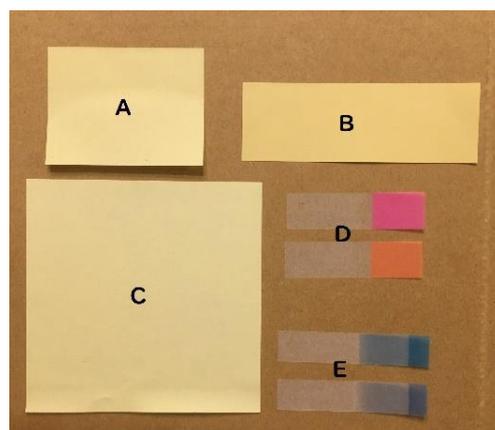
- 印刷紙に付箋を貼り、250回貼り直してみる。
- 段ボールに付箋を貼り、250回貼り直してみる。



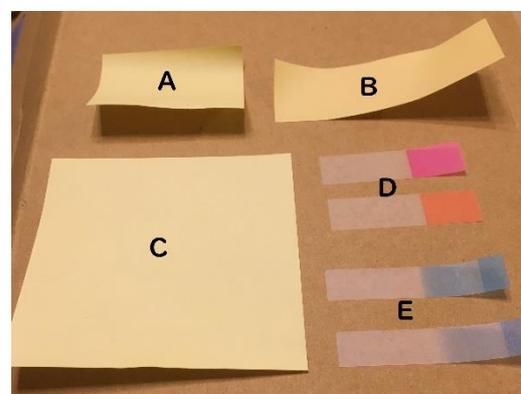
実験前



実験後



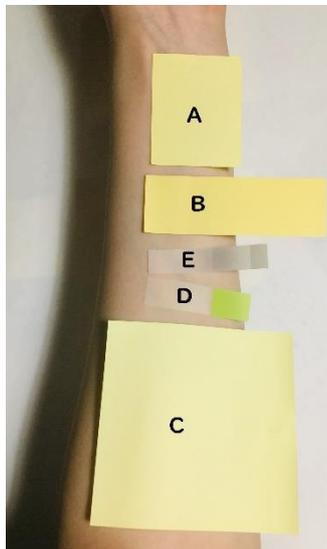
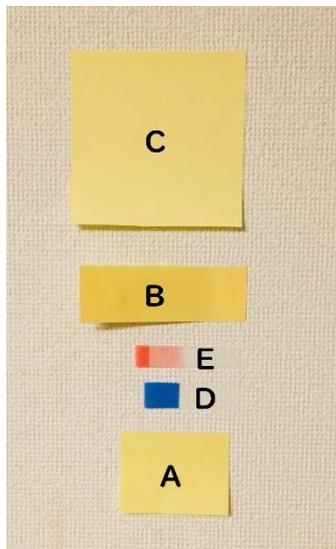
実験前



実験後

(次ページにつづく)

- 壁に付箋を貼り、剥がれるまでの時間を計る。
- 腕に付箋を貼り直し、完全にくっつかなくなるまでの回数を数える。



◎：反り無し ○：やや反り △：大きな反り ×：剥がれ or 粘着力消失

| 付箋の種類  |         | 印刷紙 | ダンボール | 壁     | 人体   | 体感の粘着強度 |
|--------|---------|-----|-------|-------|------|---------|
| 紙      | 貼ってはがせる | ○   | △     | 72 時間 | 15 回 | ★★      |
|        | 強粘着     | △   | △     | 72 時間 | 29 回 | ★★★★    |
|        | 全面のり    | ○   | ○     | 35 分  | 9 回  | ★       |
| フィルム   |         | ◎   | ◎     | 72 時間 | 23 回 | ★★      |
| トレーシング |         | ○   | ○     | 72 時間 | 28 回 | ★★      |

印刷紙とダンボールに 250 回貼り直したところ、どの付箋も粘着力は失われなかった。しかし、フィルムタイプやトレーシングタイプの付箋と比較すると、紙の付箋は反りや折れが多くみられた。「強粘着ふせん」は特に反りが大きかったが、“粘着力が強いために剥がすたび反れていく”という印象だった。調査をする中で個人的に感じたことだが、「全面のりふせん」は台紙から一枚取る際にカールしてしまい剥がれやすくなる。

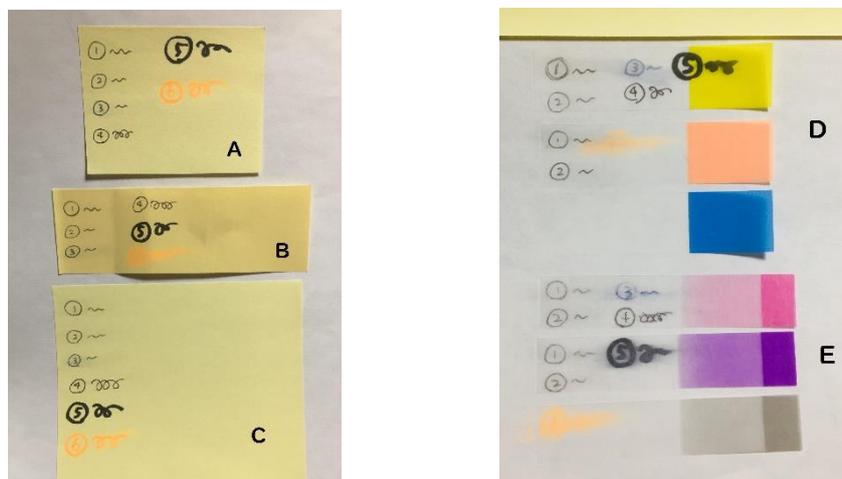
壁に貼る実験では、「全面のりふせん」が 35 分で剥がれ落ちた他は大きな変化が見られず、3 日経過してもしっかりとくっついていたので、タイムアップとした。

人体へ貼る実験では、「強粘着ふせん」が最後まで残った一方で、「全面のりふせん」はすぐにくっつかなくなってしまう。とはいえ、どの付箋も 30 回程度で粘着力が失われてしまったので、やはり紙やダンボールと比べると人体に付箋は貼りにくいようだ。

4 つ全ての項目において、フィルムやトレーシングタイプの付箋が反れることも剥がれ落ちることも少なく、好成績を残しているのが意外だった。

### ◇書き心地

①鉛筆、②シャープペンシル、③水性ボールペン、④油性ボールペン、⑤油性マーカー、⑥水性蛍光ペンの6種類の筆記具で各素材の付箋に文字を書き、書き心地や滲み、擦るとどうなるかを調査した。



◎：すらすらと綺麗に書ける ○：書きにくい ●：滲む

△：とても書きにくい ▲：とても滲む ×：書けない・消える（文字の判別不可）

|        | ①   | ② | ③  | ④ | ⑤ | ⑥ | 備考        |
|--------|-----|---|----|---|---|---|-----------|
| 紙      | ◎   | ◎ | ●  | ◎ | ◎ | ◎ | 水性は擦ると滲む  |
| フィルム   | ◎/× | ◎ | △▲ | ◎ | ● | × | 乾燥が遅く滲みがち |
| トレーシング | ○   | ◎ | △▲ | ○ | ▲ | × | 全体的にザラザラ  |

今回の実験では、①鉛筆、②シャープペンシルはどのタイプの付箋でも綺麗に書けたが、フィルム素材の付箋には鉛筆で書けるタイプと書けないタイプがあるので留意点として記しておく。

水性のペンは全体的に滲みがちだったが、やはり紙が一番早く乾燥して滲みが少なかった。ただ、紙付箋の中でも「強粘着ふせん」は、少しだけ厚く表面がつるつるしているため、他の紙付箋と比べて滲みが目立っていた。

トレーシング素材は表面がザラザラしているためどの筆記具でも書き心地は微妙。触り心地としてはフィルムタイプの付箋を厚くしたようなものなので、水性ペンも乾燥が遅くとても滲んでしまった。

### ◇まとめ

粘着力面、書き心地面からみても、マルチに使いそうなのは紙の付箋である。形状も多岐にわたるため欲しいサイズの付箋も見つかりやすい。ただ、耐水性・反りや折れには弱

いので用途や使用環境によっては剥がれてしまうこともあるだろう。「貼ってはがせるふせん」はその名の通り、250回貼ってはがしても粘着力は失われなかったが、反りによって剥がれやすくなってしまう。貼り直すのもほどほどにしておこう。

フィルム付箋は短冊形が多く折れにも強い。ペンの種類を限定すれば文字もそこそこ書けるため、本のしおりやマーキングとして使うのに向いているだろう。今回見た範囲では短冊形が主流のようだが、紙付箋と同様にブロックメモ型も増えてくるとたくさん上から書き込む際に便利かもしれない。

トレーシング付箋は正直、鉛筆で書けるタイプのフィルム付箋で代用可能のように思われる。インターネットで調査すると、B6サイズの『トレーシングペーパーふせん』というものがあるようだ。サイズや形状、色によっては書類への書き込み用や、“付箋”というより固定できるトレーシングペーパーとして使用することが出来るのかもしれない。

今回は様々な付箋の長所や短所を調査した。素材・色・形状など豊富な組み合わせの中からそれぞれの用途やニーズに合った付箋を探してみたいだろうか。

\*

---

## 『文具に関する論考と企画：奈良女子大学文具ゼミ 2020』

〔2020年度「文化社会学演習」WEB版報告書〕 <https://bungu-narajo.org/>

---

2020年8月1日 編集・発行 国立大学法人奈良女子大学文学部

人文社会学科文化メディア学コース 小川伸彦研究室編

〒630-8506 奈良市北魚屋西町 E-mail [ogawanobuhiko@cc.nara-wu.ac.jp](mailto:ogawanobuhiko@cc.nara-wu.ac.jp)